特定非営利活動法人 野生動物救護の会 会報

RUNNER

NPO法人 野生動物救護の会

VOL.1

◆ あいさつ　理事長 渡辺優子　ーP1
◆ 野生動物救護の会とは？　ーP2
◆ 活動内容　ーP3
◆ らんちゃん便り　ーP4
◆ 特集　今日のRUNNER
ミズナギドリ　ーP5､6
◆ 山下の突撃レポート
設立記念パーティー　ーP7
◆ ジャパンバードフェスティバル　ーP8
◆ インフォメーション（ＷＥＢ版は割愛）ーP9

RUNNER とは？？

この会報のタイトル“RUNNER” には３つの願いが込められています。

☆ 自然環境保全センターの長年のアイドルであるランちゃんがいつまでも元気でいられるように

☆救護の会が RUNNER のようにどんな困難も乗り越えて進んでいけるように

☆動物たちが元気に大空に飛び立ち、走り続けていけるように

『　今　』

　毎日の生活の中で、ふと気がつくと

つばめの姿が、前より少なくなった気がするとか・・・

雪の降る日が、減ったような気がするとか・・・

なにげなく気づかされる環境異変は多かれ少なかれあると思います。

私たちの暮らす地球は気候変動により

大きな影響を至る所で受けています。

そんな危機的状況の中で『今』

私たちは、自分達の手でできる事を一人一人真剣に取り組み

実行して行かなければ、

後世に遺して行かなければならない大事なものを

失ってしまいます。

そう、野生動物とそれらを取り巻く環境を守って行く事も

人類の大切な１つの役目ではないでしょうか。

私たちの「野生動物救護の会」で何ができるかは、まだまだ未知数。

でもそれは大いなる夢に向けた未知数でもあります。

この会報誌がきっかけとなり、自分たちのしなければならない

『何か』のヒントでも得ていただければと願っています。

渡辺　優子

野生動物救護の会とは？

私たちの役割

様々な原因により救護される野生動物の命を一つでも多く救い、自然環境保全に貢献すること。それが私たち野生動物救護の会の役目です。

日本には、古くから人が管理を行うことで維持されてきた里山が存在しています。その里山には多くの生き物が生息する反面、開けた林は野生動物と人の生息地を分ける境界の役割も果たしていました。

しかし、近代化が進むにつれ、それまでの生活は一変しました。人の手により管理が行われてきた山は放棄され、荒れ放題になり、不要になった土地の一部は道路や住宅地へと姿を変えました。

人と野生動物との境界が薄れたことにより、長い間保たれてきた関係が少しずつ壊れつつあります。

鳥類では、ネコによる被害や人工物への衝突。哺乳類では、交通事故や疥癬症など毎年、数多くの野生動物が人の影響により傷つき、救護されています。

このような現状を救護活動を通じて把握し、得られた知見を広く普及し、改善へとつなげることが私たちの役割です。

概要

厚木市七沢にある、神奈川県自然環境保全センター（以下、保全センター）では、業務の一環として傷病鳥獣の救護活動を行っています。

その保全センターを拠点に 10 年来救護活動をしてきたボランティアにより 2006.2.5、「野生動物救護の会かながわ」が結成され、2007.10.2、より活発な活動を推進するためにNPO 法人の認可を受け「特定非営利活動法人　野生動物救護の会」が設立されました。

野生動物救護の会　役員紹介

理事長：渡辺　優子
活動暦は約10年、ボランティアがきっかけとなり鷹匠の技を習得し、これまでに多くの猛禽類を野に帰しています。

副理事長：安井　啓子
活動暦は約10年、ボランティアをきっかけに鳥類を学び始め、少しずつ積み重ねた知識と経験を生かしています。

副理事長：光井　淳之
活動暦は約10年、環境教育に取り組む彼の入れるお茶は一品です。

理事：佐藤　信敏
本業はカメラマン。活動暦は約2年だが、様々な活動の企画運営を行っています。傷病鳥のカレンダーも好評です。

事務局長：三輪　早見
活動暦は約２年ながら、豊富な知識と経験を生かし会を引っ張る存在です。地域ネコ（p3参照）の普及にも力を注いでいます。

活 動 内 容

保全センターでの活動

■救護活動

私たちの活動の中心となるのが保護された野生動物の救護活動です。保全センター職員と協力し、掃除、餌作り、挿餌、給餌など基本となる作業を行います。

■Ｍプロジェクト（猛禽プロジェクト）

近年、オオタカやハヤブサなど猛禽類の都市部への進出が見られ、それに伴い、猛禽類の救護数は年々増加する傾向にあります。

これらの種の中には絶滅危惧種に指定されているものも多く含まれています。Mプロジェクトでは救護された猛禽類を再び野生に返すためのリハビリを行っています。

■解剖や羽根標本作成

残念ながら救護された動物のすべてを助けることはできません。しかし、それらの動物を解剖することで死亡原因を解明し、原因の改善に努めています。また、羽根標本を作製することで鳥類の翼の仕組みや羽根の構造を学ぶことができます。

普及啓発活動

□人工物が鳥に与える影響

鳥類の救護原因の一つに窓ガラスや電線などの人工物に衝突しケガをするというものがあります。このような「衝突」は鳥類の救護原因の中で大きな割合を占めており、人為的な事故の主原因となっています。当会では、衝突による被害の現状を一般に広く知らせ、改善を促す活動を行っています。

□放し飼いネコが鳥類に与える影響

ペットとして私たちの生活に欠かすことのできないネコですが、鳥類のネコによる殺傷被害は意外に多く、また死亡率が高いことが問題となっています。当会では、そのような現状を一般に広く知らせた上で、ネコの室内飼いのお願い、※「地域ネコ運動」の普及を進める活動を行っています。

※地域ネコ：野ネコに避妊・去勢をした上で、一代限り地域で飼育するネコ。

□巣立ちビナの「誘拐しないで」キャンペーン

巣から出たばかりのヒナはすぐには飛ぶことができず、親鳥に餌をもらいながら少しずつ飛べるようになります。それをヒナが巣から落ちたと勘違いして保護してしまうことがあります。しかし、親鳥のもとから離してしまっては、ヒナの独り立ちを邪魔することになってしまいます。この活動では、そのような誤った保護を減らすための普及啓発を行っています。

野生動物救護の会では、様々な活動を通して自然環境保全に貢献しています。今回紹介した活動の他にも、救護ボランティア養成のための講習会や勉強会、より多くの動物を野生復帰させるため施設の充実化にも取り組んでいます。まだまだ設立したばかりの団体ですが、傷ついた野生動物を救うため、一人でも多くの方の協力が必要です。

らんちゃん便り

保全センターに運ばれてくる動物は、一命はとりとめても、残念ながらもう二度と野生に帰ることができないことがあります。そういった動物たちには、その余生を保全センターで過ごしてもらうか、長期里親ボランティアさんの許で過ごしてもらっています。この会報誌の名前の由来になったタヌキのらんちゃんもまた、脊髄の損傷により起立と歩行ができないため、野生復帰できない動物たちの一員となっています。らんちゃんはその余生を保全センターで過ごしてもう5年になり、今や野生動物救護の会のアイドルです。そんならんちゃんを紹介します！

まずは身体情報です。らんちゃんに協力してもらっておおまかに測らせてもらいました。

全長：50cm　体重：ヒミツ☆（女の子ですから）
体高：35cm　ウエスト：43cm　ヒップ：46cm
首回り：30cm　　ですっ

☆らんちゃんは、晴れた日のお昼は外でお昼寝をしています。この写真はその時に撮らせてもらったものです☆

さて、どうしてらんちゃんは保全センターに運ばれてくることになったのでしょうか？センターの職員さんにお話を伺いました。

若き日の野生のらんちゃんは、茅ヶ崎市のとある工事現場の資材置き場で生活していたようです。

しかし、2002年5月15日にらんちゃんの一生を変える出来事が起こりました。その日、らんちゃんは何故かその資材置き場の2階にいました。そして、工事現場の人たちが2階に上がってきた物音に驚き、逃げようとして階段から落下してしまったのです。

保全センターに連れてこられた時のらんちゃんは意識がなく、覚醒してからも全く動けず、ミルクすら飲めないというかなり危ない状態にありました。その時に応対された職員さんはそんならんちゃんの様子を見て、「明日には逝っちゃうかもしれない」と思ったそうです。

ところが、らんちゃんは強かった。翌日にはミルクを飲み始め、いつしかミルクから流動食、流動食から固形物が食べられるようになったのです。未だに起立・歩行はできませんし、この先もできるようにはならないでしょう。ですが、ちゃんと餌を食べてくれますし、寝返りもうてます。そして、センターの職員さんや、ボランティアさんの愛情をいっぱいにうけて、元気に過ごしています。

☆ボランティアさんに抱っこされているらんちゃん

このコーナーでは、さまざまならんちゃんを知ってもらうために、らんちゃんの情報をお届けしていきます!!

今日のRUNNER

第一走者：ミズナギドリ

ここではセンターに運び込まれた傷病鳥獣について保護記録やエピソードを交えてご紹介します。

台風に運ばれてきた迷子？

2007年9月上旬、日本に上陸した台風9号。
その後、ミズナギドリの仲間が3羽相次いでセンターに運ばれてきました。台風の強風にあおられて陸地に着いたようです。県内ではいずれも珍しい種類なので詳しい種類の同定は現在依頼中です。

①受付番号070488の個体

保護個体データ

①受付番号：070488
種類：カワリシロハラミズナギドリか
　　ハジロミズナギドリと思われる
保護年月日：2007年9月7日
保護場所：藤沢市片瀬海岸　民家付近
状態：元気なし、外傷は特になし（体重：465g）
転帰：2007年9月17日　死亡（体重：450g）

②受付番号：070489
種類：ヒメシロハラミズナギドリと思われる
保護年月日：2007年9月8日
保護場所：伊勢原市下落合　道路上
状態：元気なし、外傷は特になし（体重：122．7g）
転帰：2007年9月14日　死亡（体重：126g）

③受付番号：070490
種類：シロハラミズナギドリと思われる
保護年月日：2007年9月8日
保護場所：愛川町中津大倉　道路上
状態：元気なし、左翼肘の骨折、右水かき一部欠損
　　（体重：126．6g）
転帰：2007年9月14日　死亡（119g）

観察メモ（2007年）

9/7　鳥①　保護

9/8　鳥②、鳥③　保護
二羽を同じケージに入れ、鳥①のケージ横に置く

9/13　鳥②、鳥③
活発に動きまわっている
仲良くくっついてお互いに羽づくろいをすることもある

9/14　鳥①　水に浮かせてみたが撥水しない
鳥②、鳥③　死亡

9/15　鳥①
小学生が釣ってきた生きた魚を自力で数匹食べる

9/17　鳥①　死亡

○ 図鑑○ NO.1

・ミズナギドリ科

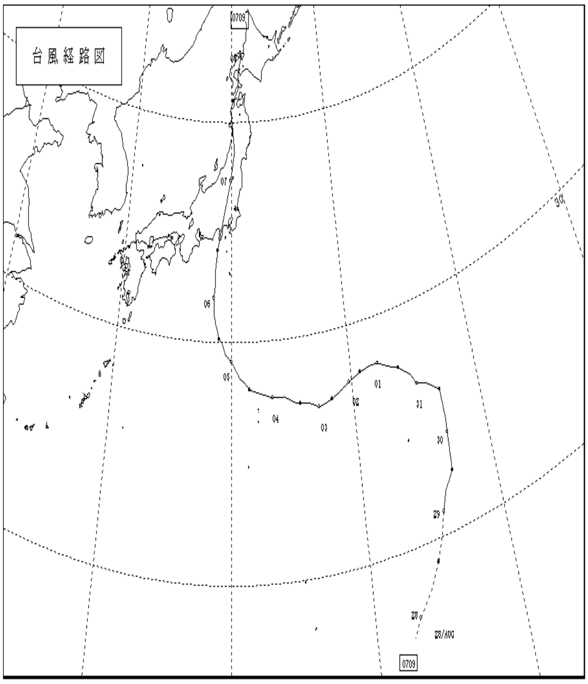
(世界：７４種、日本：１８種)

多くの種は南極周辺の海域で繁殖する。日本では５種が繁殖するほか、南半球で繁殖し、春から夏にかけて日本近海に飛来するものもある。中～大形の海鳥で鼻孔はチューブ状、嘴は先が少しかぎ形に曲っている。繁殖期以外は大洋で生活し、海上で帆翔とはばたきを交互にくり返して弧をえがきながら、魚などをとる。魚群に大群が集まることもある。飛びたつ時には海面を足でけって助走をする。集団繁殖し、土中に穴を掘って１卵を産むものが多い。ミズナギドリ目の鳥は他の科も含めてフェリーなどで沖に出ない限り見る機会は少ないが、オオミズナギドリは陸からも見られるほか、台風通過後などに弱って保護されることがある。

＊引用：高野伸二『フィールドガイド 日本の野鳥』
増補改訂版 (財団法人 日本野鳥の会、２００７)

台風情報

2007年9月上旬、日本に上陸した台風9号は、8月29日に南鳥島近海で発生しました。
下記は台風9号の日本上陸までの経路図です。



＊引用：気象庁ホームページ(http://www.jma.go.jp/jma/index.html)

センターで保護された個体以外にも、ちょうど同じ時期（2007年9月7日）にヒメシロハラミズナギドリの死体が藤沢市で発見されました。現在は剥製標本として平塚市博物館に収蔵されています。

これから先へ…

残念ながらセンターで保護されたミズナギドリ3羽は全て死んでしまいました。これらの鳥たちの遺体は後に博物館施設へ移管される予定です。
死んでしまったとはいえ、陸から遠い大洋で過ごす海鳥の生態はまだ実態が解明されていないことも多く、貴重なサンプルとなるでしょう。

傷ついた野生動物を保護し世話をするだけでなく、助けられなかった動物からも情報を得て、今後の保護活動に活かしていくことも私達の役目なのです。

山下の突撃レポート！！

設立記念パーティー

「野生動物救護の会　かながわ」はこの度、NPO 法人の認可を受け、「特定非営利活動法人　野生動物救護の会」として新たなスタートを切ることになりました。この設立を祝い、2007 年 10 月 28 日（日）に自然環境保全センターのレクチャールームにて設立記念パーティーが開催されました。

記念パーティーには保全センターの岩崎所長を始め多くの方々にご出席いただき、皆様から暖かい励ましのお言葉をいただきました。また、当会のボランティアの方々も多数ご参加下さいました。

パーティーの会場は当会のスタッフにより飾り付けがなされ、テーブルの上には色とりどりの料理が並べられました。皆さん楽しく語らいながら食事をし、和やかなパーティーとなりました。

理事長の挨拶

■ビデオ上映

食事の後は当会のプロモーションビデオの上映を行いました。

このプロモーションビデオは、野生動物救護の会の活動内容をまとめたもので、傷病鳥獣治療飼育舎の掃除や餌やり、傷病鳥獣の手当ての補助をしている様子の他、交流会や会議、羽根標本作成の様子などが紹介されています。

また、ビデオの上映後にはM（猛禽）プロジェクトの活動内容をまとめたスライドも上映されました。

■M（猛禽）プロジェクトの披露

ビデオ上映の後は外に出て、Mプロジェクトで行われている猛禽類のリハビリの一環である飛行訓練の様子を、メンバーの長期飼養のオオタカとノスリで披露してくれました。

飛行訓練は、まず猛禽の両足に革紐を付け、止まり木に止まらせておきます。そして、人間が止まり木から少し離れたところ（約 2～3m）に立ち、革手袋をはめた片手を上げ、餌を持って合図を送ります。すると猛禽は手の餌に向かって飛んで来ます。この動作を繰り返しながら距離を延ばして、飛び方の確認や飛ぶための筋力アップを図ります。

最初に飛行訓練の様子を披露してくれたのは、ノスリです。ノスリは、大勢の人に囲まれていたせいで緊張していたのか、周りをキョロキョロして、なかなか飛び立とうとしませんでした。しかし、止まり木との距離を少し縮めてあげると、ノスリは手に向かって勢いよく飛び立ってくれました。

オオタカも、合図を送ると止まり木から餌に向かって勢いよく飛び立ちました。その後もオオタカは何度も飛行訓練の様子を披露してくれました。

ノスリ

ジャパン・バード・フェスティバル 2007

2007 年 11 月 10 日(土)、11 日(日)の 2 日間、千葉県の我孫子市でジャパン・バード・フェスティバル 2007 が行われ、私たち「NPO 法人 野生動物救護の会」もこのイベントに参加しました。当日は 2 日間ともあいにくの雨でしたが、鳥好きには最高のイベントでした。

ジャパン・バード・フェスティバルとは、「人と鳥の共存をめざして」をテーマに開催され、鳥を愛する人たち、自然環境を大切にする人たちが一堂に会して、活動の成果などを発表するイベントです。

ブースの様子

■当日までの準備

フェスティバルの準備は休日に保全センターに集まり、啓発ポスターの作成やフェスティバルで販売するためのグッズの作成をしました。グッズ作成では主に羽しおりを作りました。

羽しおりは、鳥の羽根（換羽で抜け落ちたり、傷病舎で死んでしまった鳥）を学名が書かれた紙の上に貼り、ラミネートで閉じて作ります。初めはラミネートがうまくいかずクシャクシャになってしまいましたが、回数を重ねるごとにきれいに仕上がるようになりました。

また、ボランティアの方の中には自作でアクセサリーやキーホルダーなどのグッズを作ってきてくださった方もいました。羽根とビーズを使ったストラップや鳥の絵が描かれたキーホルダーなど、とてもかわいらしい作品でした。

その他にも T シャツのイラストを描いてくれた方、当会の旗を手直ししてきてくれた方など多くの方が準備に協力してくださいました。皆で協力しひとつになって盛り上げたイベント参加だったと思います。

■野生動物救護の会のブース紹介

当会のブースでは、ポスターでの活動紹介や羽しおり・カレンダー・アクセサリーなどのグッズ販売を行いました。ポスターは「一羽でも怪我をする鳥を減らすために！」「一羽でも多くの野生復帰をめざして！」の 2 種類を展示しました。

「一羽でも怪我をする鳥を減らすために！」のポスターは、鳥がなぜ救護されてくるのか、その原因を減らすにはどのようにしたらよいかをまとめたポスターです。

もう一枚の「一羽でも多くの野生復帰をめざして！」のポスターは、救護の会の活動内容を簡潔にまとめたものです。

当日の会場は、雨の影響もあり、お客さんの数は昨年に比べてかなり少なかったです。しかし、それでも多くの方が私たちのブースに足を運んでくださいました。

グッズ販売の方も好調な売れ行きで、特に人気があったのは羽しおりでした。中には、お土産用としてたくさん買ってくださった方もいらっしゃいました。

また、当会のこれまでの活動・活動内容などをまとめたパンフレットの配布や保全センターの傷病鳥獣のための募金活動も行いました。

私たちの活動を通じて一人でも多くの方に野生動物救護の意義を理解していただければと思っています。

啓発ポスター